

シアトルにおける日本国内 6 港湾のクルーズ船誘致活動について
-「Japan Cruise Seminar in Seattle 2018」-

平成 30 年 11 月

日本海・瀬戸内海連携港

(青森港、金沢港、境港、北九州港、広島港、神戸港)



1. 誘致活動の背景・目的

近年、日本国内の様々な地域に多くの外国クルーズ船が寄港しています。昔ながらのクルーズを引き継ぐ小型船から、数千人の人が乗船できる最新の超大型船などで、世界各国の方々がいらっしゃいます。最近では日本発着するクルーズも増えてきており、日本人もクルーズ旅行を楽しむ機会が増えました。また、クルーズ商品によっては欧米から飛行機でやってきた方々で半数以上を占めるといった場合もあります。大型のクルーズ船にもなれば多くの方々が乗船しており、クルーズ船の寄港地で下船したこれらの乗客の消費活動により、地元地域に大きな経済効果が期待できます。外国の港を発着するクルーズ船にしろ、日本国内の港湾を発着するクルーズ船にしろ、船を運航しているのはその多くがアメリカを中心とする外国の会社です。

このようなことを背景として、青森港、金沢港、境港、北九州港、広島港、神戸港は6港湾で連携して、外国のクルーズ船及び外国人旅客を誘致するための活動を継続的に行っていきます。今回は、在シアトル日本国総領事館のご協力を得て、米国のクルーズ船の寄港と旅客の拡大を目指し、「Japan Cruise Seminar in Seattle 2018」を実施いたしました。

2. 実施内容

(1)主催: 日本海・瀬戸内海連携港(青森港、金沢港、境港、北九州港、広島港、神戸港)

事務局: セントラルコンサルタント株式会社

(2)日時: 平成 30 年 10 月 24 日(水) 13:30~16:30

(3)会場: 在シアトル日本国総領事公邸

(4)招待客: 船会社5社 11 名、旅行会社 25 社 30 名、メディア1社 1名

(5)内容:

①第一部 連携各港によるプレゼンテーション 13:30~14:30

招待客に対して、参加6港湾の代表者が自港及び自港周辺の観光資源に関する情報提供のためのプレゼンテーションを実施

②第二部 レセプション(交流会)14:45~16:30

招待客と参加6港湾の参加者が、各港湾へのクルーズ船寄港に向けての情報交換を実施

3. 実施報告

①第一部 連携各港によるプレゼンテーション

第一部は、山田洋一郎総領事のご挨拶から始まりました。総領事には、招待客へのご挨拶とともに、連携6港湾のご紹介をいただきました。次に主催者を代表して、神戸市みなと総局みなと振興部の田中誠夫部長より挨拶をさせていただきました。その後6港湾の代表者が、招待客に向けて、各々の港湾におけるクルーズ船の受入れ体制や、港湾背後にある観光資源の魅力に関するプレゼンテーションを行いました。招待客である船会社の方からは、もっと長い時間説明を聞きたかったというご要望をいただくなど、今後の誘致につながる情報提供ができました。



山田洋一郎総領事



田中誠夫部長



プレゼンテーションの様子



各港湾のプレゼンター



招待客の様子①



招待客の様子②

②第二部 レセプション(交流会)

第二部は、招待客と6港湾からの参加者が情報交換や6港湾の誘致活動を行うためのレセプションを立食形式で行いました。乾杯の挨拶は Port of Seattle の Ron Peck 氏に行っていただき、各港湾の地元の地酒で乾杯しました。レセプションの料理は領事館のご配慮で各港湾の地元の名物をつかったものをご用意いただきました。地酒、料理ともに招待客の皆さんに大変好評でした。

レセプションでは、シアトルに拠点を置く船会社や旅行会社への直接のセールス活動や情報交換を行うことができ大変貴重な機会をもつことができました。



Ron Peck 氏



招待客の様子



各港湾の地元の地酒



レセプションの料理



招待客との情報交換の様子①



招待客との情報交換の様子①